

## 8. 情報発信

### (1) ニュースレター第2号の発行（年1回発行）

発行：2010年6月 10,000部

内容：

- ・センター長挨拶「2010年度もさまざまな事業が行われます！」
- ・2009年度地域貢献研究事業／報告会のご案内
- ・2010年度地域貢献研究事業 採択事業一覧
- ・2010年度公開講座のご案内
- ・地域の声（小羊学園三方原スクエア施設長 山崎陽司さん、  
浜松ゆうゆうの里入居者 竹内理一郎さん）

配布先：

実習施設、就職施設、聖隷グループ、卒業生、同系他大学、臨床教授等、  
市内図書館・公民館、本学教職員など

### (2) ホームページの改訂

保健福祉実践開発研究センターホームページをブログ形式に改訂し、地域の皆さんへのお知らせや報告をニュースとして随時更新できるように改善しました。



## 地域と歩む

聖隷クリストファー大学

# 保健福祉実践開発研究センター

Community-Based Practice and Research Center for Health and Welfare

カテゴリー

ニュース

ウェブページ

保健福祉実践開発研究センター概要

地域貢献研究事業

公開講座

委員等の派遣

講師派遣

出前講座

当センター事業へのご参加

2011年10月10日(月)

「災害時の専門職連携～減災に向けて～」を実施しました。

10月8日(土)IPW(専門職連携)に関する公開セミナー「災害時の専門職連携～減災に向けて～」を実施しました。今回の講座では、地域住民と保健医療福祉の専門職者が災害時にどう連携・協働するかについて講義と演習で学びました。災害時の連携については東日本大震災を受けて関心が高く、地域の保健医療福祉の専門職者、浜松市社会福祉協議会職員、民生委員・児童委員、地域や企業で防災の役割を担う者など97名のご参加をいただきました。ありがとうございました。

講師は、保健医療福祉の専門職連携(IPW)推進のための教育・研修(IPE)に取り組んでいる田村 由美 氏(滋慶医療科学大学院大学医療管理学研究科 教授)と、ジャーナリストとして東日本大震災の現場に地震発生直後に入り、避難所の食の支援や取材を行ったキエルト・ドゥイツ氏。田村氏から「IPWとは?」「なぜ災害時にIPWか?」「IPWに必要なこと」等の講義、ドゥイツ氏から被災地の困難な状況のお話と、ある避難所のリーダーへのインタビュー映像の紹介の後、田村氏の提示するシナリオと課題についてのグループワークを行いました。

参加者からは講義と演習を通して「まずは自身の強みや能力を知り、他者と一緒に協働していくことが第一なのだと感じた」「リーダーの大切さ、自分からコミュニケーションをとることの大切さが学べた」「普段なかなか接点のない他職種とのグループワークは本当に勉強になりました」「講義も話し合いも、自分の気付きが



聖隷クリストファー大学  
保健福祉実践開発研究センター  
Community-Based Practice and Research Center for Health and Welfare

# News letter 2010.6 Vol.02

ニュースレター



## 2010年度もさまざまな事業が行われます！

保健福祉実践開発研究センター長 山本 誠

この4月より、本学保健福祉実践開発研究センター長を引き受けさせていただくことになりました社会福祉学部山本です。どうぞよろしくお願いします。

さて、本センターは昨年10月に始動しました。もちろん大学、そしてここに関わる教員一人ひとりは、それ以前よりさまざまな形で地域の中において活動をし、教育・研究を担ってきましたが、2008年4月の本学大学院博士後期課程の開設を機に、より組織的に地域からの声の窓口になるべくこのセンターが設置されました。このセンターの事業は大きく4つに大別されます。1) 共同事業・研究、2) 専門職研修、3) 政策形成への貢献、4) 地域住民に開かれた相談窓口・学習機会の提供です。特に、地域にある臨床・福祉現場スタッフと本学教員・大学院生との共同事業・研究については、地域貢献研究事業費を活用し、実績をあげてきています(中面参照)。

「地域と歩む」をキーワードにしたこのセンターは、地域の人たちと共に考え、共に創り出していくものです。特に浜松市・静岡県西部地域の課題を中心にして、私たちだからこそできるもの、しなくてはならないものを見出し、地域の人たちと一緒に歩みをしていきたいと思います。講座の依頼や講師派遣の依頼も、非常に増えてきています。大学にはさまざまな専門性を持った教員がいますが、まだまだ十分に知られていないのが現実です。敷居が高いと感じている方も少なくないのかもしれませんが、ぜひ当センターに声をかけてみてください。事業を共に考え、答えを見出していきましょう。

今年度もセンターが主催して公開講座、公開セミナーを開催します。また11月には、地域貢献研究事業報告会を学生主催の聖灯祭、卒業生をお迎えするホームカミングデーと同時開催で行います。ぜひ大学に足をお運びいただき、一緒に考え、忌憚のないご意見をいただければと思います。センターの活動が多くの人々の目に触れ、更に活発になっていくことを心から願っています。皆様とお会いできることを楽しみにしています。



「コーヒーショップ ケーちゃん」の様子。  
地域貢献研究事業の一環です。(詳細は中面「地域の声」参照)

- 目 次 ■ センター長挨拶
- 2009年度地域貢献研究事業 報告会のご案内
  - 2010年度地域貢献研究事業費 採択事業一覧
  - シリーズ【地域の声】  
小羊学園三方原スクエア 施設長 山崎 陽司さん  
浜松ゆうゆうの里在住 竹内 理一郎さん

保健福祉実践開発研究センターとは：

「地域と歩む」をキーワードに、臨床・福祉の現場スタッフとの共同事業・共同研究、地域の専門職向け研修、地域の自治体や専門分野に関わる団体への協力、地域住民に開かれた相談窓口・学習機会の提供等を通して、地域の保健医療福祉の更なる質の向上に寄与するための活動に取り組んでいます。

## 2009年度地域貢献研究事業

2009年10月の保健福祉実践開発研究センター立ち上げに際し、「地域貢献研究事業費」を学内公募しました。「静岡県内の保健医療福祉の実践現場と共同で行い、県内の保健医療福祉の向上につながる研究事業」であることを基準にセンターで審査の上、9件の事業が採択され、実施されました。

研究課題	研究代表者	共同研究者 ( )内は研究協力者	対象地域
小羊学園三方原スクエアにおける コーヒージュップ活動を通して 入居者および職員のニーズに関する研究	小松 啓 [社福]	辻郁 [リOT]・藤田さより [リOT]・野方円 [社福]・(小 楠麻莉奈 [社会福祉学専攻])	浜松市北区 (小羊学園三方原スクエア)
地域保健福祉活動の媒体となる市民向け 浜松市版保健福祉新聞の研究	大場義貴 [社福]	加藤寛盛《NPO法人遠州精神保健福祉をすすめる 市民の会》・(小幡肇司《メディアス(広告企画会社)》・ 峰野和仁《NPO法人静岡県小規模授産所連合会》・ 中谷高久《浜松市社会福祉協議会》)	浜松市
子育て支援のニーズ調査	小川恭子 [社こ]	小川千晴 [社こ]・坪川紅美 [社こ]・(森下恵理《社会福祉学専攻》)	浜松市内
発達障害幼児に適切な聴覚検査と 発達レベルとの関係	立石恒雄 [リST]	足立さつき [リST]・池田泰子 [リST]・石津希代子 [リ ST]・(松本知子《浜松市根洗学園》)	浜松市
特別養護老人ホームにおける リハビリテーションサービス介入のための 基礎的研究	西田裕介 [リPT]	石井秀明《特別養護老人ホーム浜松十字の園・看護 部門・理学療法士》・藤田大輔《地域密着型特定 施設第2アドナイ館・理学療法士》・平井章《社会福 祉法人十字の園・理事長》・山本隆弘《社会福祉法 人十字の園・施設長》	浜松市北区
地域在住高齢者を支える リハビリサポート体制の構築	重森健太 [リPT]	大城昌平 [リPT]・水池千尋 [リPT]・根地嶋誠 [リPT]・ 金原一宏 [リPT]	浜松市北区
通所リハビリ利用者におけるTV会議システム によるリハビリテーション指導に関する研究	前野竜太郎 [リPT]	吉川卓司 [リPT]・藤田智香子《青森県立保健大学 理学療法学科 准教授》・(池谷直美《コミュニケー ション学専攻 高草 理学療法士》)	浜松市及び焼津市、 藤枝市などの志太地域
浜松市における高齢者地域医療福祉 ネットワークの現状と課題に関する予備的研究	建木 健 [リOT]	阿部邦彦《和恵会記念病院》・木下沙央里《白脇ケ アセンター》・古屋仁美《湖東病院》・(高齢者の住み よい街を考えるネットワーク会議参加者)	静岡県西部地域 (浜松市中心)
言語聴覚士が浜松市特別支援学級で 担える役割を探る ～特別支援学級在籍児に言語評価を実施して～	池田泰子 [リST]	足立さつき [リST]・石野千鶴《聖隷浜松病院》・(松 本知子《浜松市根洗学園》・廣田桂子《県西部浜 松医療センター》・石間志津代《可美小学校》・川 合美貴《二俣小学校》・南瀬悦司《浜松市教育委 員会》)	浜松市

※[ ]内は本学教員の所属学部／専攻 ※社福＝社会福祉学部社会福祉学科、社こ＝社会福祉学部こども教育福祉学科、リ＝リハビリテーション学部、PT＝理学療法専攻、OT＝作業療法専攻、ST＝言語聴覚専攻 ※所属は2009年7月現在

## 2009年度地域貢献研究事業 報告会のご案内

2009年度地域貢献研究事業報告をポスター発表形式で下記の通り行います。  
当日は聖灯祭・ホームカミングデーも同時開催され、どなたでも大学へお越しいただけます。  
多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

### 2009年度地域貢献研究事業費 ＜採択事業ポスター発表＞

**日時** 2010年11月6日(土)

**場所** 聖隷クリストファー大学 1号館玄関ホール(予定)

※自由にご覧いただけるように報告ポスターを掲示します。

聖灯祭  
ホームカミングデー  
同時開催

## 2010年度地域貢献研究事業費 採択事業一覧

2010年度地域貢献研究事業費は、2010年2月公募、4月に審査を行い、12件を採択しました。  
今年度も周辺地域の多くの病院・施設の方々との協働、共同研究を実施していきます。

研究課題	研究代表者	共同研究者 ( )内は研究協力者	対象地域
本学大学院修士課程(がん看護学)修了生の就労復帰後の専門看護師としての役割開発に関わる課題	森本悦子 [看護]	小島操子[看護]、井上菜穂美[看護]、番匠千佳子《聖隷浜松病院》、大木純子《聖隷三方原病院》、佐久間由美《聖隷三方原病院》、小野田弓恵《県西部浜松医療センター》	浜松市
有料老人ホームにおける生活満足度とQOL (Quality of Life) の関連性	野崎玲子 [看護]	梅本充子[看護]、長澤久美子[看護]	静岡県内の有料老人ホーム及び関連する県外の有料老人ホーム
乳幼児虐待ハイリスク家庭への保健師の支援技術の向上	岩清水伴美 [看護]	鈴木みちえ[看護] (他3名)	浜松市
小羊学園三方原スクエアにおけるコーヒESHOP活動を通してみる入居者および職員のニーズに関する研究 ーその2ー	小松 啓 [社福]	辻部[リOT]、藤田さより[リOT]、野方円[社福] (小楠麻莉奈《社会福祉学研究科修了生》)	浜松市北区 (小羊学園三方原スクエア)
地域保健福祉活動の媒体となる市民向け浜松市版保健福祉新聞「シャリテ浜松」の創刊に向けて	大場義貴 [社福]	加藤寛盛《遠州精神保健福祉をすすめる市民の会》(小幡肇司《(株)メディアス》、峰野和仁《NPO法人静岡県作業所連合会・わ》、中谷高久《浜松市社会福祉協議会》、高橋久美子《浜松市手をつなぐ育成会》)	浜松市
発達障害幼児に適応可能な聴力検査と発達レベルとの関係	立石恒雄 [リST]	足立さつき[リST]、池田泰子[リST]、石津希代子[リST] (松本知子・菊池一浩・荻原晴美・上間恵里《浜松市根洗学園》)	浜松市
特別養護老人ホームにおけるリハビリテーションサービス介入のための基礎的研究	西田裕介 [リPT]	石井秀明《特別養護老人ホーム浜松十字の園・看護部門・理学療法士》・藤田大輔《地域密着型特定施設第2アドナイ館・理学療法士》・平井章《社会福祉法人十字の園・理事長》・山本隆弘《社会福祉法人十字の園・施設長》	浜松市北区
障害者の就労支援 ～“福祉”から“就労”への移行支援のポイント探索～	辻 郁 [リOT]	鈴木修・水野美知代《NPO法人くらしえん・しごとえん》、山本真実《障害者就労支援センターふらっと》(大場義貴[社福]、小松啓[社福]、松井菜奈子《社会福祉法人ハルモニア》、冨塚恵《社会福祉法人みどりの樹》、長谷川翔太《援護寮だんだん》)	浜松市
高次脳機能障害特化型リハビリテーション事業の模索	建木 健 [リOT]	藤田さより[リOT]、鈴木達也[リOT] (他5名)	浜松市
片手クッキンググループの創設	鈴木達也 [リOT]	辻部[リOT]、藤田さより[リOT] (他2名)	浜松市
言語聴覚士が浜松市発達支援学級で担える役割を探る ～モデル学級への介入を通して～	池田泰子 [リST]	足立さつき[リST]、石野千鶴《聖隷浜松病院》、伊藤信寿[リOT] (松本知子《浜松市根洗学園》、廣田桂子《県西部浜松医療センター》、石間志津代《可美小学校》、川合美貴《磐田市立総合病院》、南瀬悦司《浜松市教育委員会》)	浜松市

※[ ]内は本学教員の所属学部／専攻 ※社福＝社会福祉学部社会福祉学科、社こ＝社会福祉学部こども教育福祉学科、リ＝リハビリテーション学部、PT＝理学療法専攻、OT＝作業療法専攻、ST＝言語聴覚専攻 ※所属は2010年5月現在

### 地域の声

知的ハンディのある人たちとともに  
コミュニティの再生をめざして

小羊学園三方原スクエア 施設長 山崎 陽司さん

三方原スクエア※は、従来の入所施設の形態から脱却し、新しい発想の中で展開していくことを願って新築されました。この発想の中の一つに、地域の人たちと交流ができる機会をたくさん作りたいという想いがあり、玄関を入ってすぐの場所に交流スペースを設けました。その交流スペースを使って、聖隷クリストファー大学の小松教授から、施設利用者や職員のニーズ調査と学生たちとの交流を目的とした地域貢献研究事業として、コーヒESHOPをやってみようとの申し出があり、喜んで協力させていただきました。実際のコーヒESHOPの様子を見ると、研究事業とい

地域貢献研究事業「小羊学園三方原スクエアにおけるコーヒESHOP活動を通してみる入居者および職員のニーズに関する研究」にご協力いただいています。

う堅苦しさはなく、そこに集う人たちが自然に交流し、当初緊張していた学生たちの顔が打ち解けて楽しそうになっていくのがわかり、本当に嬉しくなります。施設中心の福祉から地域の方たちの助けを受けながらの福祉へ展開していくことに、コミュニティの再生の可能性を感じています。  
※三方原スクエア…社会福祉法人小羊学園が設置する知的障害児施設・障害者支援施設。収容保護の色濃い従来の福祉施設から、地域交流を基調にした福祉施設への転換を意識して2008年秋に開設されました。



# 2010年度公開講座のご案内

詳細は順次大学ホームページに掲載いたします。

一般の方向けの講座を「市民公開講座」、専門職者向けの講座を「公開セミナー」として開催いたします。  
インターネットまたはFAXでお申し込みください。多くの皆様方のご参加をお待ちしています。

## 公開セミナー

IPW (専門職連携) 講座

### 多専門職のリーダーシップ教育としての連携教育 –イギリスでの実践から–

英国をはじめとする海外のInterprofessional Work (collaboration) 理論とその実践例を通して、  
効果的で効率の良い職場管理ならびに質の高い医療福祉サービスを提供するためのマネジメントの基礎を学びます。

◆日時／2010年7月31日(土) 13:30～15:00 ◆講師／ウェストミンスター大学 ヒュー・バー教授 ◆場所／聖隷クリストファー大学

リーダーシップに関する講座

### リーダーシップのたまご：グループワークを通して

◆日時／2011年2月予定 ◆講師／本学看護学部教授 小島通代、社会福祉学部教授 志村健一 ◆場所／聖隷クリストファー大学

## 市民公開講座

### がんと向き合う、地域で支える

ベストセラー「病院で死ぬということ」出版から20年、2人に1人ががんになる時代だからこそ、あなたに知っておいて欲しいことがあります。

◆日時／2010年7月18日(日) 15:30～17:00 ◆講師／ケアタウン小平クリニック 院長 山崎章郎(やまざきふみお)氏  
◆場所／アクティシティ浜松 コングレスセンター31会議室 ◆対象／一般市民の方々

主催：緩和ケア普及のための地域プロジェクト 共催：本学保健福祉実践開発研究センター

### すこやかリハサポート

◆日時／2010年12月11日(土)、12月25日(土)  
両日とも13:00～16:00

◆講師／本学リハビリテーション学部 理学療法専攻教員  
◆場所／聖隷クリストファー大学 3号館1階(3101教室)

すこやかな生活を送るためには、生活の中で適切なトレーニングが必要です。  
この機会に、健康生活を維持するための知識と方法を学び、すこやかに過ごして  
いただきたいと思います。

◎第1回：予防医学に基づいた健康づくり／筋力トレーニング／呼吸トレーニング  
◎第2回：生涯人間発達と健康／脳トレーニング／生活トレーニング

### 家庭での介護を考える(仮)

◆日時／調整中 ◆講師／本学社会福祉学部教員 他 ◆対象／家族介護を身近に感じている方

参加申込みに関する問い合わせ先

聖隷クリストファー大学  
保健福祉実践開発研究センター  
【申込方法】

申込開始は講座開催日の約1ヵ月前からとなります。

【インターネット】大学ホームページ→公開講座 <http://www.seirei.ac.jp/>  
上記ページからお申込が可能です。画面の案内に従って必要情報を入力後、送信してください。

【ファックス】Fax.053-439-1406

氏名(フリガナ)・住所・電話番号・FAX番号・職業(勤務先)・申込講座名をお知らせください。  
FAX用紙は大学ホームページからダウンロードできます。

## 地域の声

大学との共同企画

「ゆうゆういきいき講座」に参加して

浜松ゆうゆうの里入居者 竹内 理一郎さん

私は聖隷クリストファー大学の近隣約400mの場所にある介護付有料老人ホーム「浜松ゆうゆうの里」に入居しています。保健福祉実践開発研究センター開設前から、大学とゆうゆうの里が共同で企画した「ゆうゆういきいき講座※」に参加しております。今まで「理学療法の可能性」「介護予防と健康増進」「脳と身体エクササイズ」「嚥下について」「園芸療法について」「音楽療法」など数多くの講座に参加してきました。講座で得た知識や実際に器材を使って体験したこ

とは、それ以降の日常生活に役立っています。また、大学が主催するウォーキング教室に参加した際には、それまで健康雑誌やテレビ等で知識だけ得ていたのとは違って、実際に行動・実践してみる大切さ、難しさがわかりました。

ゆうゆうの里だけではなくなかなか実現できない講座を学術的な立場から取り組んでくださる大学に対して深く感謝しております。今後も保健福祉実践開発研究センターを中心として、このような地域貢献事業がますます活発になることを期待しております。

※ゆうゆういきいき講座…浜松ゆうゆうの里が「入居者が新しい興味・目標を見つけるお手伝いをしたい」「施設にしながら生涯学べる環境を整えていきたい」という主旨のもとに実施している講座。2006年度から本学教員が講師として協力している。

【地域と歩む】保健福祉実践開発研究センター ニュースレター 第2号  
発行／聖隷クリストファー大学 保健福祉実践開発研究センター

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453 TEL:053-439-1400 FAX:053-439-1406  
Eメール:health-science@seirei.ac.jp HP:<http://www.seirei.ac.jp/>